

利用ソフトウェア	SPSS 16.0J for windows		
授業名	マーケティング情報論, 専門演習	名前	太田 幸治

SPSSは、データの単純な集計から多変量解析まで、比較的簡単な操作で統計解析ができるため、日本においても、心理学や社会学、マーケティングを研究している多くの大学に導入されているソフトウェアである。

私の講義では、専門演習とマーケティング情報論で、かかるソフトを用いた授業を展開している。

かかる2つのコースでは、マーケティング・リサーチの実習を行なっている。2つのコースにおいて、学生が行なう消費者ニーズについてのアンケート調査を集計する際にSPSSを使用している。

例えば、このソフトを使えば、図1にあるようなクロス集計表を簡単に作ることができる。このクロス集計表は、小生のゼミの学生が、本学学生に対して大学選びの際に何を重視したかをアンケートで聞いたものを、性別で集計し、その割合を表示したものである。この表から、大学選びの際、男性よりも女性のほうが、パンフレットの内容を重視していることが分かる。この集計から、大学は女性に受けがいい入試パンフレットを作ればいいというマーケ

ティング的な示唆を導くことができる。

またSPSSは簡単な操作で多変量解析を行なうことができるので、消費者の知覚マップを作る際にも有用である。例えば、オープン・キャンパスに会場した高校生を対象に、愛知大学、南山大学、中京大学の各大学のイメージについて、10ずつ質問したとしよう。その10の質問を変数とし、それを因子分析にかけることで、10の質問から少数の因子を求めることができる。そしてその因子分析結果を用いて、オープン・キャンパス参加者の頭の中にある各大学のイメージを知覚マップとして表現する。大学のマーケティング戦略をクラスで議論する際、この知覚マップを用いることで、当該大学と他大学との競合関係を確認でき、当該大学の製品差別化を導く参考資料となる。

私は講義で、SPSSのような統計解析ソフトを使う際に注意しなければならない3つのことを説明している。どれも当たり前のことであるが、それだからこそ忘れがちになるので、何度も学生に繰り返し説明している。まず①調査者が仮説を持つこと。大学で研究をする際、学生は既存研究と自らの頭脳を使って仮説を導き出し、その仮説を確認するという作業を経て欲しい。また、なぜ、かような仮説になったの

¹ここでいう知覚マップとは、消費者が頭に思い浮かべる複数の製品の位置づけを、いくつかの評価軸上で表したものである。

か、調査者が説明できなければ意味がないことも強調して説明している。私の講義では、学生が導き出した仮説をアンケートを用いて確認するわけだが、そのアンケート集計の際に、統計解析ソフトを用いるというスタンスでいて欲しい。SPSSは仮説を確かめるための道具であって、その操作が目的であってはならないのである。次に②アンケートの作り方である。社会調査をする際、社会調査の基本的なルールを無視してアンケートを作っては、いくら解析が正確にできたとしても、導かれた解析データはほとんど意味のないものになってしまう。だから、事前にアンケートの作り方などの教育をする必要がある。最後、③統計の基礎知識を持つことである。統計学でやってはいけないこと、あるいはやっても意味のないことだったと

しても、コンピュータは、指示を与えればその通りに計算してしまふ。例えば、データ入力する際、「男」を1、「女」を2としたとする。このデータの平均値をとっても意味はないが、コンピュータに指示を与えれば、平均値を計算してくれる。他にも、統計学上やってはいけないことはたくさんある。自動車が一方通行の道を逆走できるように、コンピュータも機械だから、指示を与えれば統計学上やってはいけないことを計算してしまふ。私は講義で、統計の基礎知識の復習にかなりの時間を割き、その後に調査実習を行なうようにしている。マーケティング情報論は、1セメスターの講義である。それゆえ、1セメスターという短い期間では、なかなか深い調査実習ができないのが悩みである。

性別 * 大学のパンフレット

性別		大学のパンフレット	
男性	女性	1	2
13.16	13.88	38.88	27.76
14.76	13.88	33.88	4.56
27.92	27.76	72.76	32.32
28.68	41.64	76.64	37.32

大学のパンフレット		性別	
1	2	男性	女性
38.88	72.76	13.16	13.88
33.88	4.56	14.76	13.88
72.76	32.32	27.92	27.76
76.64	37.32	28.68	41.64

図1：クロス集計結果

性別 * 大学のパンフレット

性別	大学のパンフレット
1	1
1	2
2	1
2	2
...	...
31	1
31	2

図2：データ入力画面